



6年生ありがとうの会

先週の2日（金），4・5年生が企画した「6年生ありがとうの会」が行われました。

1年生と手をつないで花のアーチをくぐって6年生入場。その後は、シルエットクイズです。6年生のシルエットを見て、ヒントを参考に誰かを当てていくゲームです。「いつもやさしい〇〇さんです。」のように6年生のよい所と一緒に発表しないと正解にはなりません。在校生は、ちゃんと6年生一人一人のよさを見ていて、どんどん正解していきました。そして、すこやかグループでのかくれんぼ、在校生から6年生へのプレゼント、委員会の引継ぎ、6年生からお礼の合奏と全学級へのプレゼントと進み、最後はくす玉を割っての退場となりました。

これまで、リーダーとして立派に全校を引っ張ってくれた6年生に感謝するために行われた会ですが、在校生の精一杯の「ありがとう」の気持ちが伝わったのか、少し潤んだ目をした6年生もいたようでした。

5年生が中心となり、4年生と何度も話し合いを重ね、在校生みんなで準備してきた会です。会が終わってから、後片付けを終えた4・5年生を集めて労いの言葉をかけましたが、どの子の顔も、やり遂げた満足感でいい表情をしていました。6年生の後を引き継ぎ、内小友小をさらによくするために、きっとがんばってくれるものと信じています。



「いじめ・いじわる0集会」

いじめやいじわるについて考えるための集会を3年生以上で行いました。はじめに、事前にいじめについて子どもたちがどのような考えをもっているかのアンケートをとっていたので、そのアンケート結果についての発表がありました。いじめについて学校では、「いじめるほうが絶対に悪い」と指導しているのですが、「いじめられるほうにも悪い部分がある」「いじめるほうもいじめられるほうも悪い」と考えている子が見られるなど、今後も引き続き指導しなければならないところもありました。その後、グループに分かれていじめについての標語を考え、発表。「いじめ0 少しの勇気が 救いの手」「仲間なら 助けてあげよう 一人でも」…10個の標語ができました。校長からは、物事を「+思考」で考えること、当たり前のごことに感謝できる気持ちを持ち、「ありがとう」をたくさん言うことが、いじめのない学校につながることを話しました。「+思考」ができ、常に周りの人に感謝する気持ちを忘れない人は、みんなに応援してもらえます。平昌オリンピックのメダリストのようにです。つまり、そういう人が自分の夢を叶える可能性が高くなるのです。私は、内小友の子どもたちには、そんな人になってもらいたいと思っています。